

「企業人の教育からみえてきたもの～キャリア教育は特別な教育じゃない～」

参加報告と考察

箕輪町立箕輪中学校 松島 利之

今年度上伊那教育会キャリア教育委員会では、標記研修会を計画し、福田幸子さんを講師に講演会を行いました。

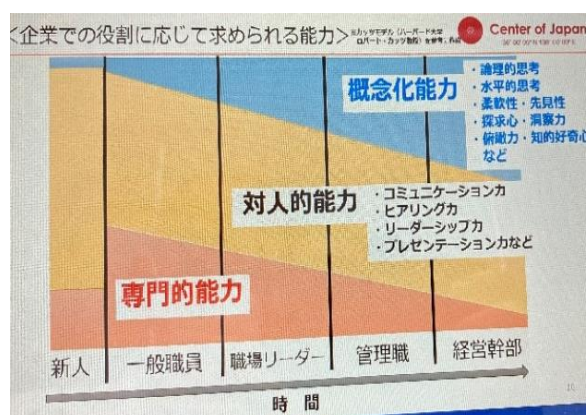
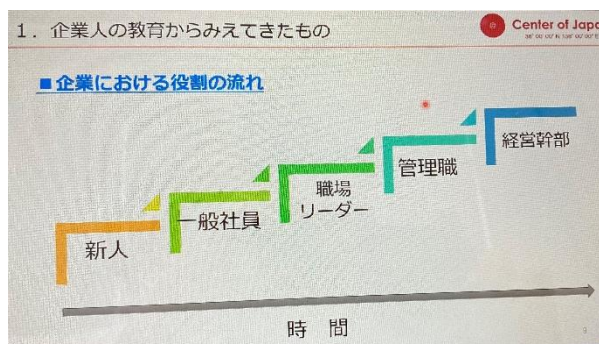
講師の福田さんは、企業の人財開発部で新入社員の研修を担当されたご経験を持ち、現在は縁があり、辰野町で地域活性化起業人として活動されています。辰野中学校のキャリア教育の講師として携わって下さり、キャリア教育に関する知識はとても豊富な方です。

〈報告〉

今回の講演では、まず、「企業人の教育」についてお話していただきました。

企業人の教育で高めたい能力には、大きく分けると「専門的能力」「対人的能力」「概念化能力」の3つがあり、例えば、新入社員の段階では、対人的能力の割合が多く、その中でも接客、マナーに関する教育が多いが、職場リーダーの段階になると、概念化能力（論理的思考、水平的思考、柔軟性、先見性など）の割合が増え、対人的能力の教育内容も、コミュニケーション、人材育成、ネゴシエーションとなってくるなど「企業における役割の流れ」「役割に応じて求められる能力」「それぞれの段階で行なわれる教育と割合」についてお話していただきました。教職員にも通ずるところはありますが、学校という職場以外の研修の様子を知る良い機会となりました。

また、階層の節目ごとに「キャリアデザイン」の研修も実施しているようです。「キャリアデザイン」とは、自分自身が将来どのような仕事・働き方をしたいのか、ビジョンを明確にしたうえで行動に移すことで、会社や上司によってキャリアや働き方を



決定されるのではなく、あくまでも自分自身が主体となって考え、キャリアを構築する意味で使われます。キャリアデザインが注目されるようになった背景には、終身雇用を前提とした年功序列制度が当たり前ではなくなってきたことや、成果型の評価制度にシフトしてきたことが影響しています。アメリカでは、20世紀初頭から職業指導運動が始まっていたのに対して、日本ではまだ20年ほどの歴史しかなく、企業人でもキャリアをデザインすることに、苦戦する姿が見られるようです。

そんな経験から福田さんは、子どものころから「自分を知る力」「社会にかかわる力」「仕事を知る力」「未来を描く力」という「キャリアをつくる4つ力」をつけてほしいというお話をされました。

〈考察〉

キャリアをつくる4つの力と箕輪中学校での取り組みを関連付けました。

4つの力	具体例	本校の活動との関連付け
自分を知る力	好きなこと(情熱) 得意なこと(能力) 大切にしていること (価値観) 苦手なこと 嫌いなこと	・学級、学年、部活、生徒会など仲間とかかわる中で自分のことを知る。 ・道徳の授業や日々の生活帳によるふり返り
社会にかかわる力	対人的能力 ・他者を知る ・互いに認め合う ・自分の考えを伝える	・学級、学年、部活、生徒会など仲間とかかわる中で自分のことを知る。
	社会性 ・人々に役立つ ・社会に貢献する	・生徒会活動、係活動
	規律性、自主性 ・ルールを守る ・選択	・日々の学校生活
仕事を知る力	仕事について チームワーク ・情報処理 ・やりぬく	福祉体験(1年) 職業調べ(1年) わくワークみのわ(1年) ※地元の事業所の方々に、各ブースで体験・実践型ワークショップや、パネルや製品などの展示、説明をしていただく。 職場体験学習(2年) キャリア講演会(2年) ふるさと箕輪学(3年)
未来をつくる力	夢を描く 人生設計 行動する 未完了をなくす	社会科、道徳科で先人の生き方について学ぶ キャリア講演会(2年) 進路フォーラム(3年) 各種講演会 ふるさと箕輪学(3年) ※地域とのつながりを大事にしつつ、箕輪のひと・もの・ことと関わりながら、体験・調査活動を通して、「自分で考えて動くクリエイティブな資質」を養い、ふるさと箕輪に誇りを持ち、地元箕輪を大切に思う心情を育むことを目的行う学習。地域の皆様のさまざまな価値観や生き方に触れていくことで、生徒一人ひとりのキャリア形成につなげていく。

「キャリア教育」という言葉が公的に登場したのは、平成11年12月の中央教育審議会答申でした。キャリア教育は喫緊の課題といわれながら、「実際何をしたらいいのか」「そもそもキャリア教育って何?」「キャリア教育＝職場体験学習?」というのが現場の実態だったと思います。

今回の講演を聞いて、キャリア教育といっても特別なことをするのではなく、日々の学校生活での友達や仲間とのかかわりや、子どもが主体的に学んでいく、日々の授業を積み重ねていくことが大切であることがわかってきました。実際の授業においては、「本時のねらい」を設定する際に、教科としてのねらいとともに、子どもたちが自分らしさを発揮しながら、他者と協力できるような場面を増やしていけるようにしていければよいと思います。

もちろん職場体験学習は、中学校でのキャリア教育の中核となる活動です。ただ、職業に関する知識や適性を知る学習で終わってしまうのではなく、そこで出会った大人とのふれあいの中で、その人の人生や生き方、仕事への取り組み方、地域への思いなどを学んでいくようにしていくことが大切です。

本校でも、1年生では、「福祉体験」「わくワークみのわ」、2年生では、「職場体験学習」3年生では「ふるさと箕輪学」を通して、地域の大人と一緒に活動をしています。(詳細については、このホームページのR3年度「箕輪中学校の実践例」をご覧ください。)

これらの活動の感想を見ると、かかわった働き方や生き方から、「すごい」とか「かっこいい」という表現がいくつも見られました。子どもたちは、地域で活躍している大人にあこがれを持つようになり、生き方の一つのモデルを獲得しているように感じられます。これこそがキャリア教育で重要なことだと思いました。